



校長室だより

黒部市立荻生小学校
文責：校長 寺島紀子
令和5年3月20日
第45号

3/17(金) 6年生の門出を全校で祝い、見送った卒業式

前日の雨が上がり、少し肌寒いながらも柔らかい光が差し込む体育館で、今年度の卒業式をとり行いました。今回は在校生が全学年とも、また保護者の皆さん、8名の来賓の方々、そして教職員と、約260名が一堂に会しての、数年ぶりに本格的な卒業式でしたが、終始厳粛で引き締まった雰囲気の中での、大変よい卒業式となりました。

卒業する6年生は、どの子ども少し緊張した表情ながらも、自分なりの大きな発声と落ち着いた所作で卒業証書を受け取り、「別れの言葉（呼びかけ）」と『旅立ちの日に』の歌で卒業への思いを表現していました。

一方在校生は、姿勢よく心静かに式に臨み、拍手や国歌、校歌の歌声で卒業生の門出をお祝いする気持ちを伝えていました。

卒業式を終え、6年生が教室で最後の学級の時間を終えた後は、全校が再び体育館に集まり門出の会が行われました。

5年生の司会進行の下、6年生の代表による卒業生の言葉があり、荻生小学校への万歳三唱、卒業生への万歳三唱もありました。卒業式とはひと味違ったリラックスした雰囲気の中で、会場の明るい拍手子に見送られながら、卒業生は体育館をあとにしました。

その後、玄関前の立看板や「将就」の記念碑の周辺では、いつまでも名残を惜むように、友達や家族、担任の先生らと共に記念撮影をする卒業生の姿がありました。

こんなにも心に残る、よい卒業式をすることができ、本当によかったと思います。子供たちの成長を強く感じる感動的な一日でした。



★この「校長室だより」のカラー版は本校のホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想をお待ちしています。下に記入しご提出ください。

校長室だより第45号への感想

年 児童名

★卒業生への最後のメッセージを式辞に託しました

卒業式での校長の大きな仕事と言えば、卒業証書の授与と式辞です。一人一人の名前を読み上げる証書授与は、卒業する子供たちに改めて向き合い、短い時間の中にもいろいろな出来事を思い出しながら、個別に「おめでとう」と伝える、大変幸せな時間をいただきました。

式辞では、一人一人が自立した人間へと立派に成長して欲しいことと、そうして、ゆくゆくは皆で力を合わせて、これからの新しい世の中の作り手、担い手となってほしいことについて話しました。



<式辞より 要旨抜粋>

今月三日の「六年生を送る会」で、皆さんは「努力」「協力」「感謝」の三つのことを在校生に伝えてくれましたね。この六年間、時にはぶつかり合いながらも互いを認め合い、共に力を合わせてつながり合い、皆で成長してきた皆さんだからこそ「努力」「協力」「感謝」の三つのことを学び取ることができたのだと思います。

皆さんは、一人一人が今日の卒業式を節目として、これから少しずつ心と体の自立に向けて進んでいきます。不安を感じる人もいるかもしれません。しかし、皆さんならきっと大丈夫です。荻生小学校に伝わる「将就」の心で、毎日少しずつの積み重ねを大切にしながら、「努力」「協力」「感謝」を、これまで以上に自らの姿で実現していく、そのような自立した人間へと立派に成長して欲しいと願っています。

そして、もう一つ、卒業する皆さんには、一人一人がこれからの新しい世の中の作り手、担い手となってほしいと願っています。歌い慣れた校歌には、「明日の栄えを担うのだ」「明日の日本を築くのだ」とあります。一人一人が、自分のいる場所から、気付き、考え、実行し、社会と関わっていくことから、少しずつ新しい世の中が作られていきます。

皆さんはこれまでも様々な学習を通して、「基本的人権」「SDGs」「世界平和」「安心・安全」「地域の発展」など、世の中の問題や理想とするヒントに気付いていることでしょう。ぜひ、その気付きの芽を大切に学び続け、自分の身の周りから、やがては広く大きな世界へと、皆で力を合わせて、考え、行動し、新しい世の中を実現して欲しいと願っています。

卒業生一人一人が歩んでいくこれからの人生が、輝かしいものとなるように祈っています。



3/16(木) 児童会引き継ぎ式をおこないました

卒業式前日の16日(木)には、全校が体育館に集まっての児童会引き継ぎ式が行われました。6年生から5年生へ、校旗と青少年赤十字の旗を引き継ぎ、それぞれの代表があいさつを述べました。

自分たちの思いとアイディア、力を出し合って、来年度も子供たちなりの児童会活動を思い切り展開して欲しいと願います。

6年生から児童会のバトンを受け継いだ5年生は、この日の午後には4年生と一緒に卒業式の準備でも張り切って仕事をしていました。頼りになる新しい荻生小学校のリーダーです。



おまけのくひとこと 今回の卒業式に当たって、校歌や国歌の歌はどうするかというのも検討事項でした。コロナ全盛期の頃は「心の中で歌いましょう」が鉄則になっていました。今回は特に「心の中で」とは言わず、会場の全校児童が(在校生はマスクをしたまま)自然に任せて歌うということにしました。とはいえ、大きな会場に集まっていっしょに歌うということに慣れていない子供たちが心配で、「生のピアノ伴奏だけでは声が小さいかも」と歌唱入りのCDを流して歌うことに…。しかし、予想に反して子供たちのマスク越しの歌声はとても元気がよく、素晴らしいものでした。ここにも子供たちの成長と底力を感じました。

★この「校長室だより」のカラー版は本校のホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想をお待ちしています。下に記入しご提出ください。